

第1号議案

道路改築事業

国道353号 川島バイパス 渋川市金井～祖母島

着工年度
評価理由

平成21年度
社会的状況の変化

1. 事業の目的

国道353号川島バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化や医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

また、ハッ場ダム周辺地域の生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

【上信自動車道全体の効果】

医療施設への搬送時間の短縮

・吾妻地域から群馬県の総合周産期母子医療施設への1時間圏域人口が約9千人増加

【約24千人 約33千人】

関越自動車道へのアクセス向上

・関越自動車道 渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮

【約90分 約60分】

ハッ場ダム周辺地域の生活再建を支援

【上信自動車道 川島バイパスの効果】

国道353号の渋滞緩和

・北群馬橋交差点 渋滞長 450m 解消



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	渋川市金井～渋川市祖母島	
区分	前回再評価時(H27)	今回再評価時
全体事業費	6,400百万円	8,000百万円
全体事業費増減の理由		・地質調査結果に伴う橋梁構造見直しによる増加等
事業期間	H21～H31	H21～H31
事業内容	道路延長 2,200m 幅員 10.5m	道路延長 2,200m 幅員 10.5m

事業経緯

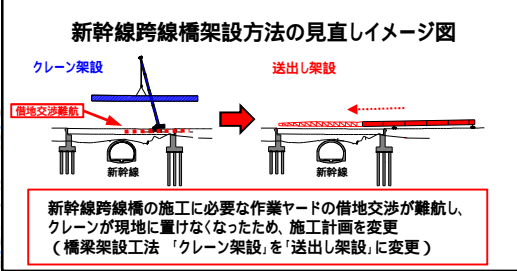
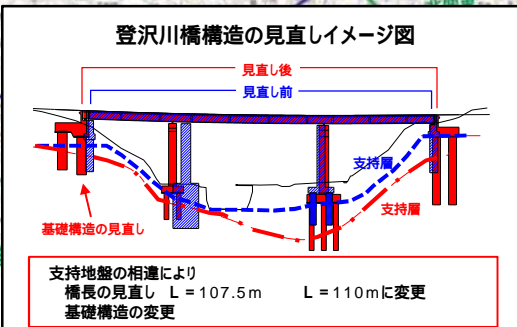
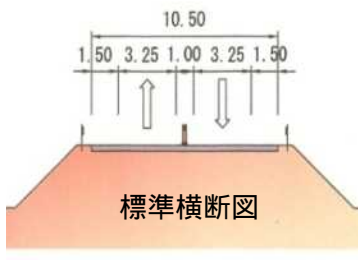
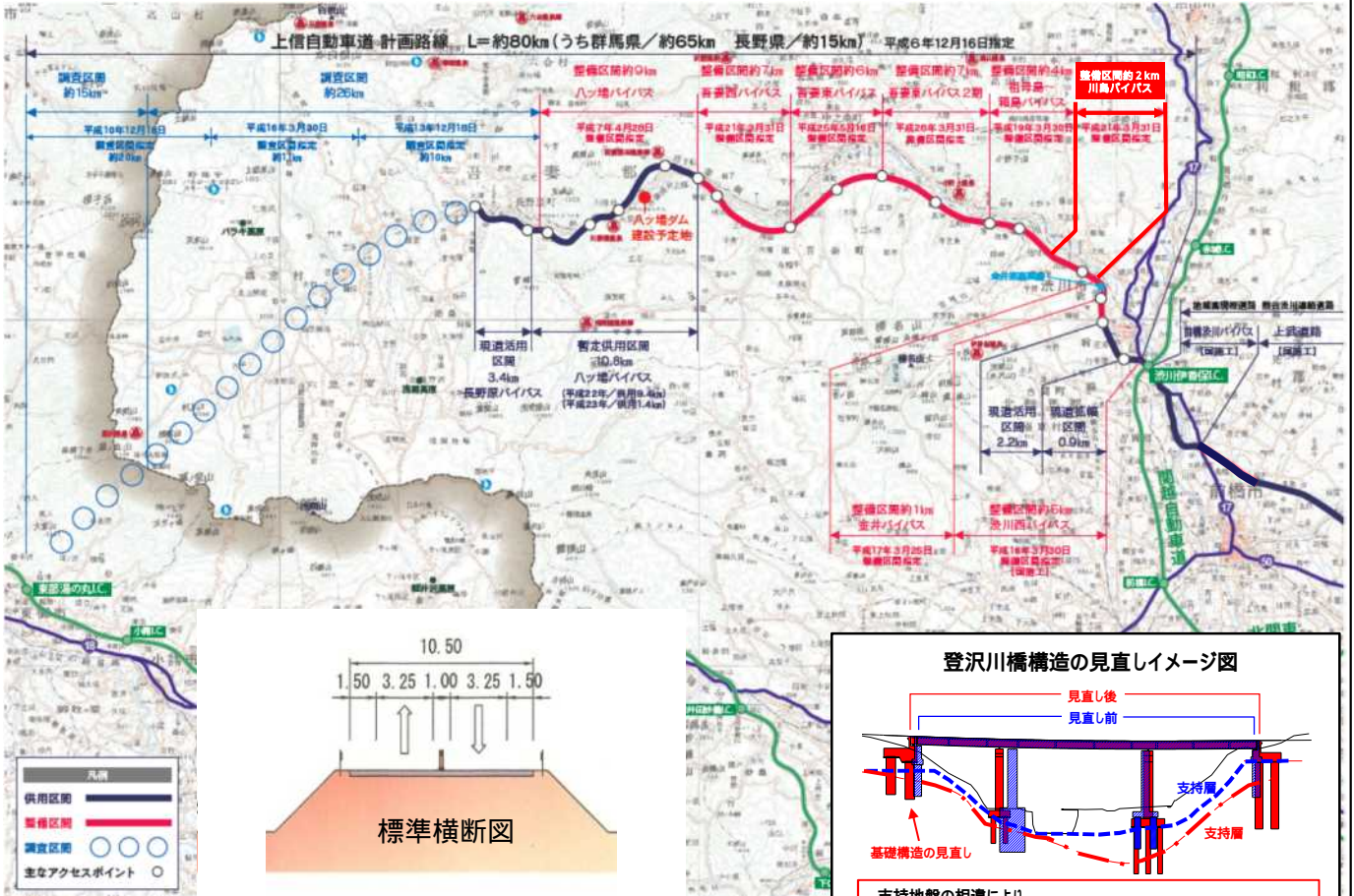
年度	主な経緯
H21	事業着手
H23	用地買収着手
H25	工事着手

進捗状況

	全体計画	前回評価時の進捗状況(進捗率)	前年度までの進捗状況(進捗率)
事業費	8,000百万円	3,202百万円 (40.0%)	4,811百万円 (60.1%)
用地買収	98,735㎡	80,438㎡ (81.5%)	97,775㎡ (99.0%)
計画延長	2,200m	0m (0.0%)	0m (0.0%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

地域高規格道路「上信自動車道」



川島バイパス概要



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

吾妻地域と県央地域間の移動時間は改善されておらず、地域高規格道路の整備により、物流・観光等の地域間交流の拡大による地域経済の活性化や、医療施設への患者搬送時間短縮が望まれており、事業の目的・必要性に変化はない。

国道353号(渋川市北牧)では、北群馬橋交差点を中心に渋滞が発生しており、吾妻地域の活性化には交通混雑の解消が急務である状況に変化はない。

国道353号 交通量調査結果 渋川市北牧付近(H27センサス)

交通量: 16,836台/日 混雑度: 1.37()

混雑度 1.0以上が渋滞

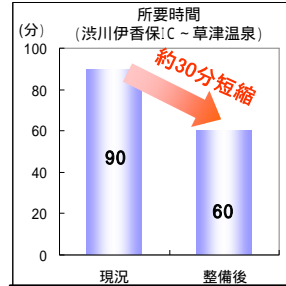


北群馬橋交差点渋滞状況
L=450m (H25.11.21)

国道353号の渋滞状況



周産期医療機関への1時間圏域



渋川伊香保IC～草津温泉
アクセス時間

4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

本バイパスは上信自動車道の一部として整備しており、高速道路網が未整備である吾妻地域のアクセス向上には欠かせない道路であり、一連区間として整備することにより、吾妻地域の活性化に大きな効果が期待できる。

渋川市内の慢性的な渋滞を解消するには、市街地を迂回する交通の分散が図れるバイパス整備が有効である。

このため、目的を達成する事業として適当であると考えます。

費用便益分析

単位:千円

		前回再評価時 (H27)		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月			
基準年		平成27年		平成29年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	6,289,000	96.6%	8,040,000	97.4%	事業費の増による	
	維持管理費	223,000	3.4%	213,000	2.6%		
費用合計 (C)		6,512,000		8,253,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便益	13,541,000	94.2%	14,646,000	94.2%	基準年の変更に伴う増加	
	交通事故減少便益	749,000	5.2%	810,000	5.2%		
	走行経費減少便益	90,000	0.6%	97,000	0.6%		
便益合計 (B)		14,380,000		15,553,000			
費用対効果分析 (B/C)		2.21		1.88			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

不測の事態により長期化】

【元々が長期計画の理由】

・インターチェンジごとに開通目標を設定して計画的に事業を推進するが、事業延長2.2km、全体事業費64億円(変更前)と事業規模が大きく、地元調整、用地取得、工事完成までに長期間を要する計画となっている。

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 スケジュールの変更

国道353号川島バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済の活性化や、医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

また、ハッ場ダム周辺地域の生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

国道353号のほか渋川市街地周辺では、依然として渋滞が発生しているなど、吾妻地域と県央地域間の移動時間の短縮が図られておらず、吾妻地域の地域経済の活性化に資する上信自動車道の整備が急務である状況は変わっていない。

事業実施にあたり、地元市町村や地域住民との合意形成に努めた結果、道路計画についての同意が得られたことから、平成23年度に用地買収に着手し、平成25年度から改良・橋梁工事に着手した。

用地取得の状況は任意交渉に加え、土地収用法の活用により面積ベースで100%となったところであるが、用地取得後に実施した地質調査結果による橋梁構造(登沢川橋の橋台基礎形式、橋長の変更)の見直し、借地交渉の難航に伴う施工計画(新幹線跨線橋の桁架設方法等)の見直しなどが必要となり、全体事業費が約16億円増加となる見込みである。

平成31年度の開通を目指して事業を推進しているところであり、施工時期の調整により他工区残土の利活用や限られた進入路を有効に活用した施工手順により工程に遅れが生じないよう努めている。

以上から、本事業の必要性、重要性は高く、事業を継続実施し、早期に効果発現を図ることが適切であると考える。